

令和4年度支部近況報告

北海道支部

建築S55年卒業 支部長 羽 深 久 夫

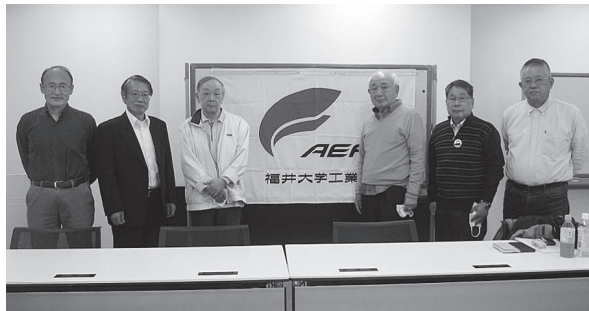
北海道支部は、コロナの影響で令和2・3年度の支部総会・会員交流会は中止となった。令和4年度は中止としたが、会員交流会は開催し、今後の支部活動について話し合いを行った。令和4年の支部会員交流会は、10月30日(日)の12:00~14:45、札幌市立大学サテライトキャンパスにおいて、小西会員(建築S43)、佐藤会員(工化S47)、池部会員(建築S49)、東山会員(電気S50)、乗京会員(産機S50)、羽深の6名で行った。東山会員は前山形大学工学部教授で東北支部の会員であったが、2020年に札幌に移住し北海道支部所属となった。支部交流会の開催は、佐藤会員から支部の今後について支部会員で話し合いの場を持ちたいとの要望を受けてである。

冒頭に金沢で6月11日に行われた令和4年度工業会全国定期総会、記念講演会「丸岡城/お天守の新たな知見と謎」講師 吉田純一(建築S46)氏、全国支部長会議の報告を行い、又、全国支部長会議で、東北・中国・四国支部から支部返上も含む支部活動の困難な状況の報告があった旨も説明した。北海道支部は本部名簿上47名であるが、居住地は札幌圏だけでなく、容易に札幌に集まれる距離でもなく、単純にリモート開催すればよいという状況でもない。

議論の前提として、工業会の組織と会の目的、支部の役割、東北・関東・東海・中国支部の状況を確認した上で、東京工業大学蔵前工業会・熊本大学工業会・小樽商科大学同窓会の支部活動の状況、山形大学における教員採用・学生指導の状況、北海道採用の卒業生の懇親会の状況、防衛庁(省)OB職員組織の状況を参考にしながら話し合った。

事務局は、遠隔地会員(渡島・檜山・胆振・後志・日高・十勝・釧路・根室・オホーツク・上川・空知・宗谷・留萌)への対応として、旅費支給はすでに行っている。支部総会を遠隔地で行う、支部役員が赴いて各遠隔地で会員交流会を行うなどの対応策はあるが、会員と事務局の経費負担の問題が生まれるが、まずは遠隔地会員に意向調査を試みることにした。

支部活動の休止、支部の返上に至った場合でも工業会会員の立場は変わらないが、約30年の支部会員の支部会費、本部からの支部補助費の繰越金の扱いが処理されなければならない。また、支部のこれまでの歩



令和4年度支部会員交流会(10月30日)

左より 東山会員、佐藤会員、乗京会員、小西会員、池部会員、羽深会員

み、支部役員の方々の足跡を年表や引継書としてまとめる必要がある。支部役員は本部役員でもあり、法律的な縛りはないにしても支部活動の実態をまとめておくことは望まれる。

今回の話し合いは結論を出すものではなく、あらゆる事態を想定して対応してゆくためのものであったが、支部の自然消滅のような事態は好ましくないと考えた。

令和5年度はコロナ禍も克服して、7月1日に支部総会、10月21日に会員交流会が予定されるが、新たな試みとして勉強会の様な会員の講演会を総会に組み込むことにした。支部長が現在修理工事中の旧北海道庁本庁舎について概説する。事務局として、遠隔地会員に支部総会、会員交流会への参加について意向調査を試みるが、本部と連携してHP上での支部情報発信、リモートによる支部役員会議や会員交流会の開催などについても試みてゆきたい。

東北支部

建築S40年卒業 支部長 三 藤 史 郎
建築S41年卒業 事務局 島 本 顕

令和4年の東北支部総会はコロナ感染の恐れのこともあり、役員会にて慎重に協議検討し、中止することにして、本部にも報告しました。

支部総会の中止は東海支部と関東支部そして東北支部の3支部で、東北支部としては唯一の支部行事である総会が中止となったこともあり、報告することがありません。

支部総会中止を決定し、支部会員の方々に中止の案内ハガキを5月半ばに送付しましたが、中止の案内と

行き違いに今年卒業就職し初めての配属先が東北となった若い会員の方から、工業会誌に同封のハガキで出席の返事を頂きました。中止となったことでお詫びをさせて頂くとともに、次回の総会にはぜひとも出席頂きたいをお願いをしたことがありました。

支部総会中止により活動報告としてはありませんので、令和4年の東北を振り返ってみたいと思います。

まず初めに、東北地方では相変わらず地震が続いています。昨年3月16日には福島県沖を震源とする震度6強の大きな地震がありました。幸い津波は起きませんでした。2011年の東日本大震災のことが思い出され、東北の人達はすぐに「津波は?」と考えてしまうと思います。

全国的にみれば東南海地震など大地震が予想されていますが、地震大国日本は全国どこかで揺れが起きており、東北地方の太平洋側は常に地震と津波の脅威を抱えていると言えます。

それとは別に今年はコロナ感染に伴う国としての移動制限などの規制もなく、旅行、観光も3年振りに賑わいを見せたのではないのでしょうか。

そんな中、青森では「ねぶた祭」がコロナ禍のため例年の前夜祭は中止となりましたが開催され、制限された人数での「ハネト」達が「ラッセラー・ラッセラー」とこれまでの鬱憤を吹き飛ばすように跳ねたことと思います。しかし、人出は残念ながら3年前の285万人の6割、105万人に留まったとのことでしたが、8月2日から7日まで3年振りに開催されました。

また、「仙台七夕祭り」も昨年より大規模に開催され、225万人の観光客が来場したとのこと。やはりコロナ感染のこともあり、七夕飾り本数はコロナ前の7割程度の220本とのことでした。しかも、吹き流しそのものもコロナ感染防止のため、地上2M以上の高さにするなどの対策をしたようで、少し寂しいものになったのではないのでしょうか。

更に「秋田竿灯祭」、「山形花笠祭」も開催され、東北も少しは賑わいを取り戻せたような気がします。また10月からは国の全国旅行支援も始まり、色々な面で景気回復に繋がるのではないのでしょうか。

最後になりますが、昨年夏のコロナ第7波が落ち着き始めていましたが、10月頃からまた感染が拡大し始め、第8波に入ったと報道される中、12月から年明け1月に掛けて第8波のピークではないかと言われています。

昨年11月には全国的に感染率が上がり、人口10万人当たりの感染者数は北海道が1位で、東北宮城県が2番目となり、12月になっても感染拡大は治まらず、厳しい年末年始となりそうだと危惧するところですよ。

果たして令和5年はどうなるのか、支部総会は開催できるのか、大変気になるところです。

地震と共に、この3年間は更にコロナという人間がなかなか制御出来ないものとの戦いも強いられ、日本ばかりでなく全世界が苦悩しているといえるのではないのでしょうか。

このような事と東北支部総会の開催とは比較出来るものではありませんが、令和5年の初夏はコロナも落ち着きを見せ、支部総会も開催され、集まった人たちが笑顔で歓談できることを願うばかりです。

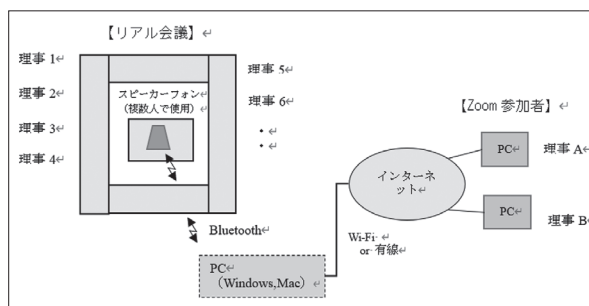
関東支部

電気S47年卒業 支部長 井上 眞一

1. 活動状況

コロナ禍のため2020年～2022年と3年連続して支部総会を中止しています。その中で総会の承認を求める事業報告や決算等については、書面により会員の承認を求めています。また、本部工業会のホームページにリンクした関東支部のホームページ(<https://aefkanto.jimdofree.com/>)を作成して関東支部総会の案内や支部活動の紹介を会員の皆さんに発信しています。特にこのホームページから支部総会の参加の申し込みもできる様にしていますので、会員の皆さんに是非活用して頂きたいと思っています。

また、支部総会の準備や支部の運営を検討する理事会は、コロナ感染防止の観点からリモート(Zoom)会議を行っています。しかし、顔を合わせた会議も必要との考えから下図の様なリアルとリモートを併用したハイブリッドシステムでの理事会を開催しています。



2. 2023年の支部総会に向けて

コロナの感染も低下しており、久しぶりに支部総会が開催できる見込みで、次のような企画をしていますので、多くの会員の参加をお願い致します。

①興味のある講演

「日本の携帯電話の光と影、そして5G(第5世代移動体通信システム)にける期待」

講師：電気H3年卒業 飯盛 英二氏

②楽しい余興の企画

電気S42年卒業の本多弘徳氏によるクイズで大いに楽しめるものを企画しています。景品は、③に記述する福井県アンテナショップで当日のみ使える商品券とし、福井県の特産物をゲットしてください。

③福井アンテナショップの出張出店

総会会場の一角に出店してもらい、福井県の特産物を販売してもらいます。へしこ、焼きサバ、小鯛の笹漬、とろろ昆布、菓子類や日本酒など福井を思い出せる特産物を買求めることができるようにします。

特にお酒（一本義等）、焼鯖寿司、小鯛の笹漬などを購入し、懇親会で皆さんと分け合って食したいと計画しています。

3. 支部総会へのお願い

関東支部では、福井大学工業会会員の相互のつながりを促進し豊かなOB生活を実現してもらえる様に配慮しています。特に学生時代には、他の系の先輩や後輩との接点が少なかった人も、本会を通して新しいネットワークを作ってみてはいかがでしょうか。

東海支部

機械S49年卒業 支部長 谷 口 卓 司

東海支部は残念ながら令和4年度も支部総会・懇親会を中止し、3年連続の中止となりました。

例年6月に開催していますが、開催の可否を決定する4月の理事会も新型コロナ感染対策のため初めてリモートでの開催となりました。一般的に使われているZoomではなく、理事の多くが在籍するトヨタ系企業で使われているMicrosoft Teamsを使って行いました。討議の結果、新型コロナも第6波のピークは過ぎたものの、今後ゴールデンウィークの人出などもあり、まだ終息が見通せる状況にはなく、また理事が在籍する多くの企業においても業務以外の不特定多数が参加する会合への参加が禁止されており、満場一致で中止の決定となりました。

また総会での承認が必要な議案（事業報告、会計報告、規約改定、役員改選、事業計画案、予算案）につきましては、メールやホームページで議案を審議いただき、インターネットの入力フォーム【写真】からの決議いただくという初めての形式で行いました。特に規約改定で、役員は2年任期で5学科系（①建築系、②機械系、③電気・応物系、④繊維系、⑤染料・工化系）の持ち回りで行ってきましたが、平成28年の学科改組に合わせて4学科系（①建築・都市環境系、

②機械・システム系、③電気電子情報・応物系、④物質・生命化学系）への懸案であった改定案を審議いただきました。その結果、回答者54名全員からの全議案の承認を得ることができました。

福井大学工業会東海支部
Alumni Association of Engineering, Fukui University, TOKAI

令和4年度 支部総会の決議入力フォーム

2022年6月19日(日)に開催を予定していた東海支部総会は、昨今の新型コロナウイルス感染状況を鑑み中止します。
つきましては、次の「総会決議事項の議案」について審議いただき、以下のフォームから賛否を回答いただきますようお願いいたします。

<総会決議事項の議案>は次のリンクをクリックして確認して下さい。
https://aeftokai.web.fc2.com/2_soukai/gian.pdf

締切：令和4年5月31日(火)

東海支部ホームページ： <https://aeftokai.wixsite.com/aeftokai>
お問い合わせ(事務局)： aef_tokai@hotmail.com

*必須

メールアドレス*

メールアドレス

氏名*

回答を入力

インターネットで行われた支部総会決議の入力フォーム

以下、東海支部の状況についてお話ししたいと思います。

東海支部は、愛知、岐阜、三重、静岡の4県の会員で構成され、会員数5,461名で全国の22.5%の会員を擁し、本年度近畿支部の5,376名を抜き、福井支部の6,799名に次いで2番目の規模になりました。4県の内訳は愛知県3,997名(73.2%)、岐阜県710名(13.0%)、静岡県425名(7.8%)、三重県329名(6.0%)で、愛知県が大半を占めています。これは、愛知県を中心とする自動車関係と愛知県・岐阜県を中心とする繊維関係の企業に就職している会員が多いためです。

卒業学科別では、電気電子情報系1,591名(29.1%)、物質・生命化学系1,534名(28.1%)、機械・システム系1,232名(22.6%)、建築・都市環境系551名(10.1%)、応用物理系525名(9.6%)となっております。東海支部は昭和35年に、当時OBが多かった繊維系OB会「東海地区繊維工業会」が主体となり、工学部全学科のOB会組織として発足しましたが、地場産業の主体が繊維産業から自動車産業(機械系)、さらに自動車関係(電気電子情報系)へと変化するのに伴い、学科別構成も変化してきています。

全国支部長会議で各支部の状況をお聞きすると、どの支部も支部役員の確保に苦労しているとのことで、東海支部も例外ではありませんが、他支部に比べると

多少環境が良いのかと感じます。現在東海支部は20名の理事で活動していますが、多くの理事がトヨタ系企業に勤務しており、理事の継承は各企業内での先輩から後輩へと比較的スムーズに行われてきました。

各会員への情報伝達も理事の関連企業内へはメール等で、また建築系では北窓会という独自のOB会組織のネットワークで情報展開することができ、理事の関連だけでも名簿上理論的には約千名に展開することができました。

しかし、昨今は企業内でも個人情報保護の観点等から新入社員情報の入手が困難になり、またメールの運用ルールも厳しくなり、社内OB会や工業会からの情報展開などOB間のコミュニケーションが難しくなりつつあると聞いています。

また、メールで連絡できない会員への総会・懇親会の案内は、これまで支部独自の往復はがきも使っていましたが、返信率が低く、本年度からは廃止しましたので、工業会誌に同封のハガキや東海支部ホームページ(下のQRコード、または「aeftokai」で検索)から申し込みをお願いします。

唯一の事業である支部総会・懇親会への参加者は、上記の様な案内・告知により例年60~70名程度で、人数的には維持しているものの、40歳代以上の常連組と、先輩から勧誘された無料招待の新入社員が多くを占め、中堅世代の継続的な参加が課題です。新型コロナウイルス禍で活動が中断したこの3年間は支部活動の次世代への継承もできておりませんが、魅力的で自発的な活動で持続可能な工業会東海支部にしていければと思っています。まずは若い方々に参加していただき、若い視点での提案・ご意見を戴ければと思います。

2023年度支部総会・懇親会は7月の開催を予定しています。多くの方のご参加をお願い致します。



東海支部 HP QRコード

福井支部

電気S45年卒業 支部長 前 側 宏

福井支部では2022年度事業として、2回の常任理事会(第1回:5月14日、第2回:2023年2月11日)、支部総会(6月25日)、地区長会(12月16日)などを実施しました。産学技術交流会は残念ながら新型コロナ

ウイルス禍のために今年度も休止となりました。

支部総会

まず、支部のメイン行事である総会について報告します。総会は2022年6月25日(土) 勝山市にて行われました。参加者は講演会・総会では合計57名、懇親会では合計43名でした。まず講演会、続いて総会が勝山市公民館で、そのあと会場を変え、旧料亭 花月楼にて懇親会が行われました。

各イベントの内容は以下の通りでした。

(1) 記念講演会(13:20~14:10)

記念講演会では、元高校教諭で勝山市商工文化課に勤務されている山田雄造氏が「勝山左義長まつり」についてお話しされました。山田氏は福井県指定無形民俗文化財であるこの祭りについて長い間、調査を進めてきており、県外でも行われているいくつかの左義長まつりと比較しつつその歴史と特徴について詳しく、また熱心に紹介されました。勝山市民が町の宝として長年大事に守り、受け継いできた左義長祭りのことがよくわかりました。



記念講演会

(2) 総会(14:20~15:10)

総会では、まず物故者に対する黙祷が行われ、続いて来賓および工業会役員・福井支部各地区長のご紹介、支部長の挨拶、福井一俊工学部長(P55)および堀照夫理事長(D44)の祝辞等がありました。

この後、支部長の議長の下で議事に入り、2021年度事業報告、決算報告および監査報告、2022年度事業計画および予算案、2022・2023年度役員改選案などについて審議されました。審議の結果、提案事項は全て異議なく承認されました。最後に、工学部100周年記念事業委員会副委員長・機械工学講座教授の永井二郎先生から「100周年記念事業の経過について」と題する報告とお願いがありました。本事業への寄附額はまだまだ目標額にほど遠いので、会員の皆様に一層のご協力をお願いしたい、とのことでした。

なお、昨年7月に当支部の100周年事業積立金を基にした50万円を100周年記念事業に寄附しました。



堀理事長のご祝辞（支部総会にて）

(3) 懇親会 (15:40 ~ 17:10)

会場の花月楼は、製糸業とたばこ産業で発展していた明治時代の勝山市にあって華やかに賑わった花街で繁栄していた旧料亭であり、国登録有形文化財として指定されています。その趣が今も色濃く残っている、風情ある会場で懇親会は行われました。畑孝幸副理事長の祝辞・乾杯から宴は始まり、新型コロナ感染防止のため透明なシールド板に仕切られた席ではありませんでしたが、3年ぶりの会とあって、いつにも増してにぎやかで楽しい交流のひと時となりました。



懇親会

1日あたりの新型コロナウイルスの新規感染者が100人台と減少しつつあった時期とはいえ、支部総会の実施方法についてはいろいろ気遣いを要する中で、の準備は大変であったことと察します。総会の企画・運営を担当された奥越地区・坂井地区の方々には深く御礼申し上げます。

今年度の全国定期総会並びに福井支部総会

福井県民の現在の大きな関心事は、金沢から以西の北陸新幹線延伸事業です。来年春の開業に向けて、金沢駅から敦賀駅までの延伸工事は着々と進められており、芦原温泉、福井、越前たけふ、敦賀などの県内各駅舎も外観はほぼ完成しつつあります。県内では、それら各駅を中心とした賑わう街づくりが進められ、また各観光地も人をたくさん呼び込もうとさまざまな工夫や企画を推進中です。

このような中で今年度の全国定期総会および福井支部総会は敦賀市で開催されます。

県内外の会員の皆さん、工学部創立100周年の節目にあたる本年の全国定期総会（並びに福井支部総会）にぜひともご参加ください。お待ちしております！！

2023年度 全国定期総会 並びに 福井支部総会（予告）

日時：2023年6月10日（土）13時～18時

会場：敦賀市プラザ萬象

- 内容：1. 福井支部総会
2. 全国定期総会
3. 見学会（北陸新幹線敦賀駅
および車両基地）
4. 懇親会

（事務局 ER48 谷口秀次 記）

近畿支部

情報S54年卒業 支部長 西 谷 久 美
電気S54年卒業 事務局 江 口 栄 一

『令和4年度近畿支部総会』

令和4年6月18日（土）14:00、やっとのことで近畿支部総会・懇親会を開催出来ました。3年ぶりの開催で、テーマは「ご無沙汰」。会場は近畿の中心、新大阪駅にあるニューオーサカホテル。まだまだ続くコロナ禍のなか、参加には躊躇される方もあるなか、会員55名の参加を得て、久しぶりの再会を喜び合うことができました。工業会本部から堀照夫工業会理事長にご臨席賜り、ご挨拶頂きました。100周年事業の現状を伝えられ、皆さんのさらなる協力を呼びかけられ、一致団結により100周年事業の成功で工業会のますますの発展を祈念されました。

総会では山川勇郎議長により議事が進められ、楠本恵一理事から令和3年度 近畿支部事業報告、河井恭一会計・山内栄司監査から収支決算報告・監査報告、さらに令和4年度 近畿支部事業報告及び収支予算案を説明。全ての議案が全会一致で可決されました。

議事終了後、大先輩の窪田祐二様の撮影により全員で記念写真に納まりました。

続いて懇親会は同会場にて行われ、会員の中から、左藤章 前衆議院議員に、ご挨拶、乾杯の音頭をお願いしました。

コロナ禍でもあり、時間を制限した懇親会ではありませんでしたが、久しぶりに杯を交わして近況などを語り合

い、楽しく嬉しいひと時となりました。

最後には『来年も元気で再会しよう』と祈念してお開きとなりました。

さて今年の近畿支部の総会・懇親会は例年になく早く11月から理事会で案を練り、沢山の方に興味を持って頂こうと取り組みました。

まずドラマ『シューカツ屋』が、2020年2月NHK BSプレミアムで放送。一躍有名になりましたが、“国立大学就職率No.1”という高い就職率を誇る福井大学。その中心で活躍されているキャリアセンターの方にお越し頂きお話を伺います。

そして記念講演として、工学部准教授 原田陽子先生にお越し頂き、「北陸新幹線開業と福井のまちづくり」を講演して頂きます。

その他にも、福井の名物料理「おろしそば」や「厚揚げ」、「へしこ」等を懇親会にて、ご提供予定。福井の銘品即売会も併せて実施予定。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

以下は令和4年度支部総会時の写真です。



西谷支部長挨拶



堀理事長挨拶



福井大学工業会近畿支部総会（ご無沙汰）

令和4年6月18日 於 ニューオーサカホテル

記念写真



懇親会風景

中国支部

建築S51年卒業 支部長 高田明彦

令和4年度支部総会をコロナ禍で2年の中断を経て昨年6月26日に開催しました。開催を決定する2月ごろは第何波かも忘れてしまいましたが、本部では支部長会議は中止、全国定期総会開催は微妙な時期でした。中国支部の現状を考えますと今回先延ばしして次回開催できるのか多少の不安がありました。またコロナ拡大が始まった令和2年早々に支部総会を毎年開催していたホテルニューヒロデンの閉鎖が決まり、新しい会場リーガロイヤルホテル広島には2年間予約しては中止を繰り返していたこともあり3年ぶりの懇親会ということで開催を決めました。

当日は本部からの来賓はないとの連絡でしたが、無理を言いまして工業会事務局絹谷様の男気で来賓として出席いただき午後1時30分より会員6名計7名で開催しました。テーブルにはアクリル隔て板もなく（ご希望でしたら設置しますとの事でした）、何よりも32階にある会場からの眺望は絶景で平和公園から宮島まで見通せ、開会前皆さん携帯で写真を撮っていました。多少の罪悪感がありましたが総会は資料配布のみで済ませて懇親会中心に進めました。32階からの眺望も手伝ってくれたのか2年の空白を感じないほど話は続きました。皆さんコロナ禍の2年間を無駄にせず楽しんでいたようです。コロナ籠りで無駄にした私自身が見えてしまいました。

今年5月19日からG7広島サミットが開催され、フラワーフェスティバルなどの日程が変更されていますが、支部総会は6月25日に変わりなく開催します。皆様のご参加をお待ちします。



令和4年度支部総会 記念写真

令和5年度支部総会の案内

日 時：令和5年6月25日（日）

13：30～15：30

会 場：リーガロイヤルホテル広島
広島市中区基町6-78

Tel : 082-502-1121
次第・会費 総会、懇親会 会費5,000円
連絡先：〒731-0141
広島市安佐南区相田4-17-9-6
Tel : 082-878-6647
中国支部長 高田明彦 (A51)

四国支部

電気S50年卒業 支部長 植田豊喜

人の賑わいからまだ遠い静かな日常が続きますね。人の交流の面では少し緩やかな兆しが見えつつありますが、マスク生活です。私は近県回りも控えめで、田舎の生家往復と自然相手の行動が増えました。病院へのお見舞いや各種施設の訪問などは今でも制限を受ける状態と聞きます。全国でご活躍の工業会の皆さまにはご清栄のこととお慶び申し上げます。

福井の新年は雪もなく穏やかな年始とお伺いしました。年末の寒波では四国も大雪となり、高知市の平野部でも20cm程の記録的な積雪になりました。私も車で移動中でしたが、国道また高速道が通行止めとなり難儀しました。

昨年の四国支部は3年振りに支部総会を松山市で開催できました。愛媛県幹事(本部理事)の西岡氏より別途ご報告いただいておりますが、各四県より限定案内8名のご出席があり、各位からご意見を賜りました。懇親会では例年人数がもう少し多く、会話がそれぞれのグループ化するのですが、昨年の会は皆様に各話題の声が届き、大変集中した繋がりを感じる集まりとなりました。徳島県の豊田栄祥(A38)、高砂敏幸(A41)両先輩の漫才コンビのボケとツッコミは、お若ければ吉本興業にスカウトされそうな水準で、会を大いに盛り上げていただきました。今年は輪番の徳島市で開催する予定です。

私は金沢で開催された全国定期総会にもお招きいただき、出席することができました。北陸支部の皆様、お骨折りありがとうございました。

会食や旅行の機会が少なくなった当節ですが、往きは懐かしく京都府舞鶴から若狭湾沿いを進み三方五湖を回り、帰路では能登半島輪島まで足を延ばすこともでき、各地の情景が思い出に残る旅となりました。

<朝ドラ“らんまん”> をお楽しみください

今年4月からNHK連続テレビ小説で高知県出身の植物学者 牧野富太郎博士をモデルにしたドラマが始まります。高知県民は大喜びで期待に包まれています。

私の地元県ですので、高知新聞の掲載記事を基に牧野博士をご案内します。

博士の略歴は、江戸時代末1862年高知県中西部の佐川町に生まれ、昭和戦後の1957年東京練馬区で94才の生涯を閉じています。植物分類学者でした。

研究拠点は文京区にある東京大学付属の小石川植物園、大学の植物学教室に出入りを許され(31才で助手となる)研究に没頭し、植物学の世界で数々の偉業をなしていきます。日本の植物であっても海外の研究者による鑑定、命名が一般的だった当時、日本人として日本で初めて新種に学名を付けたのも博士の業績の一つでした。やがては1500種類以上の和名や学名を付けています。

博士の生誕の地 佐川町は土佐酒の双璧、司牡丹の酒蔵のある町です。町内の小山には牧野公園があり、博士ゆかりの植物が植えられています。また東京都の墓から分骨した墓碑があります。同町加茂には博士が愛したバイカオウレンの群生地があり、2月にはかれんな白い花が絨毯のように咲き広がります。

隣町の越知町横倉山は清流 仁淀川を見下ろすトレッキングに適した山ですが、博士が幼少の頃足しげく通い、ここで多くの新種植物を発見して「ヨコグラ」を冠して付けた植物も多くあります。

高知市民の憩いの場は県立牧野植物園です。大勢の観光客が訪れます。高知市五台山にあり、博士の業績を称えようと整備され1958年に開園されました。博士の業績や人物を伝え、四季折々の植物に接することができます。広々とした約8haの園内では博士が命名した植物をはじめ、3千種類以上が栽培されており、ゆったりと散策が楽しめます。牧野富太郎記念館では博士の描いた精緻な植物図や無数の書籍、遺品等が収蔵されています。絵図の描写の緻密な巧みさこそ博士の天性の才能ではなかったかと、私は感慨させられます。

もう一つ余談を加えますが、博士の若き情熱は自由民権の思想にも注がれていました。「自由は土佐の山間から出る」板垣退助を本尊に土佐は自由主義を標榜した一国でした。「人間は自由で、平等の権利を持つべきである」という主張の下に、日本の政府も自由を尊重する政府でなければいかん。圧政を行う政府は、打倒せねばならないというわけで、その村、この村で盛んに自由党の懇親会をやり大いに氣勢を挙げた」と、自叙伝で青年時代をそう振り返っています。

主役 槇野万太郎を演ずる神木隆之介さん、女中たま役の中村里帆さんや広末涼子さん、島崎和歌子さんといった高知県出身の女優陣も登場です。

皆様もドラマをお楽しみください。

九州支部

建築S47年卒業 支部長 藤 田 吉 廣

建築S49年卒業 支部理事 細 川 裕 司

―九州のアフターコロナへ向けての近況

(天神ビッグバン他)―

2019年(令和元年)6月1日に大分県別府市で堀理事長のご出席の下、九州支部大会を開催して3年10か月が経過し、やっと2023年6月に福岡で九州支部大会が開催されることになりました。嬉しい限りです。この4年間はパンデミックに襲われ、皆様大変苦勞されたことと思います。過去大会にご出席頂いた諸先輩方も、病気になるれたり、音信が途絶えたり、他地区へ移動されたりと、変化がありました。若い方々のご参加で盛り上がれば嬉しいです。

九州はアジアに近い利点を生かし、withコロナに向けて着々と開発を進めております。

その1：昨年9月に西九州新幹線が佐賀武雄温泉駅から長崎駅まで開通し、リレ-特急方式ですが、博多長崎間が最短1時間20分で結ばれ、今年1月の長崎ランタン祭は旅行客で大にぎわいでした。

その2：熊本では、TSMC(台湾セミコンダクターマニュファクチャリング社)のIC工場熊本進出が決まり、関連事業のソニーセミコンダクター社新工場の二工場だけでも1兆8000億の設備投資計画です。2023年末の工場完成に向けて、昼夜兼行3交代制で施工中です。

その3：福岡市天神地区では天神ビッグバンと称しての都市開発、博多駅周辺では博多コネクテッドと称しての都市開発を進めています。

福岡市は以前から事務所の空きスペースが少なく、建替を計画しても、建築当時(1960年代)より建築基準法が変り、もとの床面積が確保できないことから、どうやって再生していくかが課題でした。民間レベルの都市問題協議会の歴史があったことと、国家戦略特区の10地区の一つに、福岡・北九州が指定されたことから、航空法、高さ制限、容積率、公開空地等様々に見直し、容積率を最大500%アップの1400%程度にするなど、民間の参加しやすい状況造りが出来ました。ボーナス適応建物の建築確認申請79件、完成64件と続々進行中です。

福岡市は空港が近く大変便利なのですが、その分航空制限が厳しく15階程度の高さに抑えられて来ました。プロペラ時代の上昇率での計算でしたが、見直しの結果、天神地区では75m程度から115m(MAX)まで高さがUPされました。6月には旧大名町小学校

跡地が111mのリッツカールトンホテルとして開業が予定されています。

博多駅では、地下鉄七隈(ナナクマ)線が延伸され、2023年3月に開通しました。地下鉄2本の乗入れで交通網が整備され、アジアの拠点都市にしたいという市長、市民の気持ちを実現されようとしています。ビルだけでなく、“屋台”の維持にも積極的支援があり、歴史的価値のある神社仏閣の再評価も進んでいます。

これ以外にも九州の各プロジェクトに参加されている、福井大学ご出身の方も多くおられると思います。是非、支部大会にご参加いただき、貴重なお話を聞かせて頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。